

NOTE BOOK

日記

1948.7.23-

昭和23年

日記

十三日 二、三、丹波市、依ふて八木家につれり。あまのめをいづるへ
つれて行つてしむ。わき重ぬの草とり。一六〇〇連水傍より。西瓜作馳走。
いさう早くわたるゝ。あふかし瓜のこころをあらがふ。是の日もあやを

[illegible]

毒を破、邪虐を解、却て此而、新(新)

大い 佐治の予諾を以て 學友或て之を大(博)し 即ち 明
却要安部氏名大 中郡金清寺同之 安方又仁(中)て 又 村

と後中。良政の奉命せよ中口古伝の事。屋原「再臨」
といふ。神皇正統記。今。修玄君なり。之よりかして奉りしと。和令

つづらもとまふにわしと。毛紙のうしろあふせしにう
へにその遠慮ゆかりと。狐の討情に十月と。とくにうへ

しんしんあまのなまのりけふを校にもとしはるゑん（そのまゝ）
 五印の令よの論の編輯）なほ又研究をいかに伝ふるべきに

今月未至。今文と云ふ。以下實地とし江漢、西湖
に記(三)一南戎都「天即政治略俗倫政」(三二)一曰「更考」(五)

周曰至寧、
今考(公)
中皇明子
尺人呼君

云、一八。〇。〇。汽。子。い。て。停。完。
 十五。休。暇。無。休。日。雨。無。多。

十六 一、四、一、出部。富永以て教方要道の撰りたる也。書名

鳥糞を手に取らうとす。

大正三十四年、金三十万、地口一、山、新、破、氏、の、方、格、君、の、と、い、い、す、

一ノ二ノ三ノ四ノ五ノ六ノ七ノ八ノ九ノ十
好エ人虫也ト云フ者ナシ

八月二十日 六回。不出勤。二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、

今の色気ちやうど、
 京都の常向で斬金と決意、可成。情氣は
 三郎の世中君つゝおきて来訪、出陣部をせきにまらばと。夕合

し夕更のやゐで歸ちて帰る。史を并るへかのしめし靴は紙でえん
空まゝ裏面は正月いと。来い思ふまゝ紙練の書多くある。

二十日 神田位去る。午後三時。同。一。安。下。の。寺。

方、魯、 孔 氏へのスミスマンと研究報告のミナヲナシ、信 の家へ
カキハクミナミナリ。

三十一
修 弘子をかして六田といふ木を名取。一二六にて書正。三

年見二八、三、五、終、子、帰、二、五、五、分、二、一、名、後、一、里、五、(二、一、五、)

三十一 聖諭す以て掃除員、すべて晝食、常永新井二氏より付

午後、八幡壇より誕生日の祝ひ、財布呈上、こゝへおそ

高橋君の字は、山崎、江崎、そのまゝに付く。松原、
 藤原、そのまゝに付く。中村、平井、そのまゝに付く。

生るゝなか。教授なんでもあつた。もう翌日の午時過ぎにせし。助教
授の語をうしと。ふへ二時半まで起る。現象はほい落了。

九月廿 望 銀 三 兩 五 錢 不 動 春 行 日 下 夜 半 子 時 止
持 同 人 等 之 金 銀 等 物 一 六 〇 〇 兩 餘

古（今）て情。カカエの夢見。博覧多夫。杜甫。孫正。運
りし。た。和。名。号。又。二。六。八。九。の。う。つ。せ。り。

十一篇、手廻り抄のこゝに説了
功の爲の

今小のふと、
 夕方雨止む

わんしん

二九 ± 九 ~ 二 服 3 4 2 12 10

順三印石家（下）よりて、
食

20

予乞歸
洗子之
松井君
今云吉
所君の
子

在(一) 破下 个 工 以 初 生 一 金 一 市 級 所 (以 同 禁 不 化) 一 6 个 銀 價 回

江(一)江井(不仁)一
地七
生
變
在
海
金
上
車
也
通
下

● 子

癰

平江府志

二月廿八日 午後八時 至 午後九時 迄

己未

ふその日ぢらする

是動、不擇陰、才乞要法。一四〇。山中意、之云云等語。三處乞

[illegible]

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

金と縁。

十一日 雨 大。晴。神田氏在。手紙。十七日。返し。

五三〇 雨やふく雲のいそ 保良高へや竹は主

上
 孝家（中）
 久しく金は
 父君、順三
 即ちと話し
 帰

2. 野口又玄へ手紙

十日 土動吐氣下。ヒカリの夜にみ。この機に餘り佳女

リヒツリカニシテ大毎々出候云レテ此等の向合セ羽田陸士官邸ニ

此
上
下
同
之
所
以
致
此
上
下
同
之
所
以
致

し申西女といふ金か、ハイ不孝にてせいで可し。世に61

乙未 銀 箔 月 夜 夢 出 産 病 亡 時 刻 日 宣
 乙未 銀 箔 月 夜 夢 出 産 病 亡 時 刻 日 宣

十二
癸卯年
二月廿二日

現任人
薛子良

()
子良

十二日 生 本 十二日 生 本

四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

十
出
新
行
金
代

石 柱 豐 登 11
 特 公 任 11
 王 公 任 11
 吉 田 元 景 部 (少元) 11
 八 木 君

下。林説、至行一信を當番の
長と下しゐる。四巻一名句集、昨日より印刷中。二十四日ザラリーと

五
廿五日
胃要人
凡
一
下
中
世
し
大
増
強
す
外
著
証
に

女園の書に云ふ、
男は乙女を後尾に
家へ入るは

材。即君里情しあし。冬木よりかき。永遠よりあき

こころにうづはをりんじひをかしなほやすからず

十二月 出動 上向 君より電 語 塔の文 某月 曜に也、 凱井氏 平電

明日接行旅に來た。中村君と共にまり、学術會議う。

ひるふ山や雲をまへ帰る。けふ鳥之神はく夜宮。

十七(日) 隣の胃症筋よく弛せし。一一。家を出。三輪うきりば

五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

し五十歳より終歸の五十九の種抄せし
一六八の一。幕儀す

海邊の巾着屋さん。

十八 創立翌年(十八年)より十九年まで 一〇〇、〇〇〇

會、中山府石門、竹山、生龜、蓬、玄山、定、東、西、二、人、を、も、つ、

王是江表
於洞東
江表書
吉園東
忙忙
移浦

大へ遊蕩すべし。て。世の素直
なをやうにせしむ。夜の夢

上
下
中
左
右
前
後
東
西
南
北
東南
西南
東北
西北

女
書
不
三

十
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

呂々
三徳
上田
松崎
世平
杉浦

[illegible]

此の夫人を
神の御子と
思ふべし。二〇。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

二十廿
合の又解合
破は堅を要す
之

三ノ出書
此の書は、
一ノ出書に
二ノ出書に
三ノ出書に
四ノ出書に
五ノ出書に
六ノ出書に
七ノ出書に
八ノ出書に
九ノ出書に
十ノ出書に

十級級文。屋西以文余。事。治。事。以。不。得。金。去。以。

又々、幸ふか下、日東洋子非當安。以又老へい。主者うい。

同井下紙家の申込書同封中。

三
筒井(云々)紙連道木上段に面塔をいふ注をいふ。世同。

言ふは中村君に、
信じて是れにへりし。

三十一 富子印表 志(来)甘日やめ、人職

つゝ、仲書了。毛の考と横腹。その間、江村、首に反、反、反

姓名ハ逆人堂川(金四〇)ナリ。

二十四(六) 教令の教令云々と二見のて聖館(九一〇) 大豆王と云
四世同と云。八木、山中ニ表あり。其田沃田あり。

二十七日 雨 五瓶 新米大炊 とうきり 木のはちみつ とうきり 保
田 中を改しくお合せし保田を返し帰るまじと云ふと散し二の三日
帰来。りんかいの味をおしきちをうばりゆきわ木らみとうとるし
一時。

二十六七と書つてゐる(再校、終。日本にハヤシといふ島民不在佐藤君の本代五五の用墨取司。韃靼水ハ本女を殺してしまふ云々井戸で埋めた。

二十八、
出勤。根沢武雄氏着立の本整頓す。東北火災救済会
来歴、書山了。仁壽君に一旦。おたしうべつと云ふ。

二十日 運動會にて会し私に一紙の來りたるを讀みしに云ふ 芳野
清くもかき。

三十日
去勸、八、一〇、汽子下、午後
雨、晴、
草、
苗、

五十一張の山手乳紙田一とつて、この中へ
後々増え、前より半紙十冊に及ぶ。

二、出勤しておいたところ、副店長、二十日、月俸を渡すと、せうが
洋史の金も、即ちその通文、和の足金と事、結るもの、除くもの、
に差、取、取、取、酒井と、う、う、う、う、う、う、う、う、
ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
同車せし。

三日 文にのりて休業。ハ。三。八本山中二嬢来る。4里にたか歌つく
鳥足山一平に松茸拾す。一五。三三。二帰。昨の冬に市松所焼中
文に松より止む。夕方入浴。雨降る。
四日 古勤。事なし。和由とて今段乙所敷校ほいせりし。ふま

大田備へ同走を乞へし。丁の張子等良へ遊ばせ。
五上女部職令中召治とて来ふ。正合院中王駟目とて
子。高橋女部之世。仰文。令二十とてまゐ。長湯ねへ書月。一六四八
不情。われと汽車。八木雄事所へ入る也。

ふいせ。一三時。三吉中にて至帰又研良堂へ坐しし所あり
五方之人を和善博達にゆけは歸居すよし也。こゝて経回画伯

の浮き、休むに時あるをいふ。館本は「同じく和氣の言」なり。

有して。早井、カキ、エニの江戸で書食、神田信之助に合は。
金井君と一しを飯食を藤村と合して。近女。おひのかたをさす。

仁孝金

下
又の意をくしう
和口へて
木 ^{二一〇。} ぶちして
惜る。よ
十時

直ぐに金に。大いなる手前と勤王と。「ハイネ」(三)

十一月廿九日 家を出て東京文化の中心地へ行く。午後

行々くは正路を走るとわいて面はぐし。三日月形物、四村電

造 内口吟金と撞持、下淵君国山と来一玉野五二玉至新

是より、中村孝志果の。ナクしんしん空をい

嘸啻強臨之去々情。至乎乞巾於文正公之一編の塵松尺

金上五卷

二、百、通、ハ、ト、ハ、チ、キ、ノ、ミ、ニ、
ハ、タ、リ、ト、イ、フ、ヤ、ウ、シ、ル、ヲ、

[illegible]

乙巳。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

[illegible]

言ふべき所の事なり。又、此の文は、

石鏡先生集卷之五

枕タイルの巻物など。古物正一いふ人も、
 金へい、何分乏かん

九、土著の古地圖
一書く中、神田の地を、安田と

一六〇〇まで北へるし 情り人本娘とハ〇〇の信しし中村良行

君をくわて用ゐりし。汽車の客を急ぐ、保つて代うに

新刊古く書きたる。石法をへる。石。

出勸 陽明遺書 附錄 研究の道、由は其の研究の

と云ふ。司書と兼ふんと。三見まり（一〇三。）更探子。六一八九月

(秋金二。傳金三。三) 廿五
ハニ雲云。十遣云々(一三三。

行々吉原名車河村博士の傳説玉如帰途善徳社

中書。餘亦言。保田の傳言より。不快を断はる。古國を大和とす。の
 故の進料として。五ノ内。陰こそする。と云ふなり。無礼なる奴はこそなり。

十一月十日 出勤 日吉寺参詣 来りて 柳より 乙種陰一四、八時

九
早
子
と
あ
う
し
け
の
子
回
る
と
上
屋
松
君
上
海
宮
橋
君
の
子
と
あ
う
し
の

善
和の
情
ま
し
十
山
ら
て
情
古
軒
の

[illegible]

入五ハ二一〇五坪井ハヤ五坪

三、
一、
二、

いり通正記
山三聖(カ)
所ふハイ不考と。一〇五

十
九
八
七
六
五
四
三
二
一

の事へて、一五三二(陽)に於て、万の事は下草

世にても、成不化。已往へつるうかふ名は、な平堅者記一(三〇)

17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532
 533
 534
 535
 536
 537
 538

[illegible]

肥後、大田、松山、牛久、松井、新巻の七人は番刑と。オオ無事。

十三、休暇、九三〇。汽車で中老、夏衣入れ、靴、三十冊書取り、東京

まへに備前守石見和国足見金小見云々 堂館 一四〇〇下

不達即ちしかまう。二娘い狐(ち)り。いふふ事

一六四八二 敬傍 七石

吉山君の女服と申和君の両月物際「吉村君のアイヘト、フの

明の倭寇と
帰化人の
任職

行代代表

古(可)午未申酉戌
子丑寅卯辰巳
午未申酉戌
子丑寅卯辰巳

今の中島の竹(中島)に生るる竹にておす石をたき

...

同は二味と聖存（造り骨人）三言。新書。

十一日 午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

午後五時、上野公園へ散歩。...

十二日 午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

午前八時、上野公園へ散歩。...

十八 雪香社へ三すゆくとんが来けり。そらんず。九三〇いふゆ。

十人 (10) 尾西家
七十五人といふ人
あり大工の
子といふ人あり

十二月二十六日 大江至九：出子の地に於て不

二十
六
兩
九
三
九
の
中
王
義
純
仁
の
寄
付
は
去
年
の
再
合
を
し

燈籠

君の会
 方史倫
 双
 の
 五
 一
 之
 三
 五
 五

右を以て、之は同書證の如し。上野郡に之を運送して、乃ち西白を穿

内七
一
才司

凡手山書及古書君に同敷人三、八本あり
 子山書及古書君に同敷人三、八本あり
 子山書及古書君に同敷人三、八本あり

2
三
六
中
一
二
三
四

しるやえ。長江いやえ 二冊、代金(二割三厘)掛り 入りの

4
20